



## フィリピンだより

在フィリピン日本国大使館 一等書記官 おかざき 岡崎 かずと 一人



### 1. はじめに

皆さんは、フィリピンと言えば何を思い浮かべるでしょうか。まず思いつくのはバナナとマンゴー、あとはセブ島などのリゾート。他はこれとって具体的なイメージは無く、何となく危なそう、といった良くないイメージを持っている方も多いかもしれません。今回このような貴重な執筆の機会をいただいたので、情報通信事情に限らず、マニラの日常生活を含めてフィリピンを御紹介したいと思います。

### 2. フィリピン概観

フィリピンは日本とお互いの南北で領海を接する島国であり、大小7,000を超える島々により構成され、面積は約30万km<sup>2</sup>（日本の約8割）で人口は約9,400万人（2010年推計値）です。日本からの距離は意外に近く、東京-那覇間が約1,550kmであるのに対し、那覇-マニラ間は約1,480kmです。成田空港から飛行機でおよそ4時間半でニノイ=アキノ国際空港に着き、空港から30分もかからず中心市街地に出ることが出来ます。

熱帯に属し、一年を通じて日本の真夏のような気温が続きますが、マニラでは最低気温が20℃を下回することはまず無く、最高気温が40℃を上回ることもありません。東京の最も暑い季節+α程度ですから、年中日本の夏の服装で過ごすことが出来、慣れてしまえば意外に過ごしやすい気候です。6月～11月が雨季、12月～5月が乾季と明確に分かれ、乾季の終わりの4月と5月が特に暑く、エアコンが普及する前は毎年3月から5月まで避暑地であるバギオに首都が移転されていました（今でもバギオのことをSummer Capitalと呼ぶことがあります）。逆に、乾季の始めの12月～2月は比較的涼しく過ごしやすいので、日本をはじめとする北半球の国々から沢山の観光客が訪れます。

フィリピンは言語にも特徴があります。国内に70以上もの言語があると言われていますが、マニラ首都圏を中心に使用されているタガログ語を母体としたフィリピン語が憲法により国語（National Language）に定められています。一方で、英語も憲法に公用語（Official Language）として規定されています。多くのフィリピン人は英語に堪能で、業務上の高

度な会話から日常のスーパーの買物まで、英語でストレス無く済ませることが出来ます。また、特に米国英語を身につけていることから、コールセンター等のBPO事業が近年急成長しており、インドを抜いて「世界のコールセンター」の地位を確立しつつあります。英語をネイティブ同様に扱える人材が豊富にあり、外国人が英語を学ぶ機会も充実していることに加え、米国等よりも費用が安く済むため、日本や韓国等から多くの英語学習者が訪れています。それら留学生を含め、フィリピンの在留邦人数は、ASEAN諸国ではタイ、シンガポールに次いで多く、約17,000人となっています。その多くがマニラ首都圏を中心とする地域に集中していますが、リゾート地として有名なセブ周辺にも数千人が居住しています。

一方で、日本人を含め多くの外国人がタガログ語を本格的に学習することなく公私ともに英語のみで過ごしているため、外国人がスピーチの冒頭で比較的長文のタガログ語挨拶を入れると、会場のフィリピン人から拍手が湧き起こるといった光景を何度も目にしました。私も例に漏れず、マニラに来る前にタガログ語学習本を何冊か買いましたが、まだ簡単な挨拶程度しか出来ません。残りの任期中にせめて日常会話ぐらいは身につけたいと思っています。

### 3. フィリピンの歴史

フィリピンは16世紀の後半から19世紀末までスペインの植民地支配を受け、その後米西戦争・米比戦争を経て米国の統治下に入ります。第二次世界大戦中の日本による占領を経て、終戦の翌年に独立を果たしました。大戦の戦場となったことで約110万人のフィリピン人が犠牲となったこともあり、戦後の対日感情は非常に厳しかったのですが、先人達の努力により、現在はとても親日的だと言えます。

このような歴史的経緯もあり、国民の90%近くがキリスト教徒で、その他南部のミンダナオ地方を中心にイスラム教徒が約5%等となっています。南部のイスラム教徒による武力闘争が40年近く続いていましたが、昨年10月、アキノ大統領が闘争の中核組織であるモロ・イスラム解放戦線との間で和平の枠組み合意を実現し、大きな話題となりました。



## 4. フィリピン日系人の歴史

今でこそ親日的なフィリピンですが、フィリピンにおける日系人の歴史は単純なものではありませんでした。フィリピンに初めて日本人移民が渡ったのは1903年、米国の統治が始まったものの、あまりの暑さに参った米国人が避暑地を求め、マニラの北方、標高1500mの高地にあるバギオを探し当て、マニラ-バギオ間の道路敷設のために日本人労働者が集められたことに始まります。その後、南部ミンダナオ島のダバオにも農園労働者等として大量の日本人が移住し、最盛期にはダバオの日本人人口が1万人を超えるまでになりました。持ち前の勤勉さで事業に成功した者も多く、当時の写真を見ると、異国の地で意気揚々と暮らす人々の明るく力強い雰囲気が伝わってきます。

しかし、戦争で状況は一変します。第二次世界大戦で日本人移民にも多くの犠牲者が出たのみならず、先述のとおりフィリピンにも多数の犠牲者が出たため、戦後長い間、日系人は厳しい目に晒され、日系人であることを隠して生活せざるを得なかったと言われていました。そのような過酷な環境を変えるきっかけとなったのが、1972年にシスター海野（海野常世、1911-1989）がフィリピンに渡り、日系人捜しを始めたことでした。当時は日系人であることを隠して生活していたため、最初の1人に出会うまで実に3ヶ月を要したそうです。その後多くの日系人と出会い1973年に北ルソン比日友好協会を設立、翌年には奨学金を創設する等日系人の地位向上に尽力しました。

## 5. フィリピンの経済

フィリピンの人口はASEAN10カ国中2位である一方、GDPは約2,247億米ドル（2011年）で5位、国民1人当たりGDPは約2,344米ドル（同）で6位となっています。GDP成長率は、2010年7.6%、2011年3.9%と堅調で、今後も持続的な成長が見込まれています。なお、フィリピンにとっての最大の貿易相手国は輸出入ともに日本で、続いて米国、シンガポール、中国となっています（2010年）。

海外出稼労働者（Overseas Filipino Worker、OFW）が人口の約1割を占め、200億米ドルを超える仕送り（2011年）があり、堅調な消費を支えていることが大きな特徴と言えます。OFWは各国で不可欠の労働力として活躍しており、例えば、日本商船隊の船員の7割がフィリピン人です。また、フィリピン人のメイドは質が高く英語でコミュニケーション



写真1. 外国人も多く訪れる土曜の朝市。東南アジア各国の食材と料理が手に入る。

もとれるため、子供の教育にも良いということで、英語圏でも多く雇われています。このように多くの国で労働者として受け入れられているのは、その英語力はもちろんのこと、日本と同じ島国であるためか、周囲との和を重んじる気質も理由の1つと言われています。

当然のことながら、質の高いメイドやベビーシッターはフィリピン国内でも活躍しています。その表れの一つが、2005年と少し古いデータですが、ILOの調査で、管理的職業従事者に占める女性の割合が57.8%と非常に高くなっていることです（同調査において日本は10.1%）。いわゆる中流の家庭でもメイドやベビーシッターを雇うことが一般的で、質の高い家事・育児サービスが受けられるため、結婚・出産後も女性が早期に仕事に復帰し、働き続けることが可能となっています。そのため、ある程度質の高いアパートにはバスタイレ付のメイド専用部屋が設置されているのが一般的で、住み込みで使用人を雇う環境が整っています。

## 6. フィリピンの通信事情

固定電話の普及率は約7.2%（約678万人、2011年（以下同））と高くはありません。また、この数字は固定電話設備を敷設（install）している人数（推計値）であり、固定電話サービスの加入者数（subscriber）を基にした実際の普及率は約3.7%（約355万人）とさらに低くなります。シェアについては、加入者ベースで、フィリピン最大の通信事業者であるPLDT（Philippine Long Distance Telephone）が約50%、その子会社であるDigitelが約5.5%とPLDTグループが約60%を占めています。他はGlobe（Globe Telecom）の子会社であるInnoveが約12%で続きます。

一方、携帯電話普及率は約92%（約8,726万人）と、ほ



は1人1台持っている計算になります。シェアは、PLDTの子会社であるSmartが約50%、同じく子会社であるDigitelが15.7%と、PLDTグループが約66%を占めています。続いて、Globeが約31.3%を占め、事実上2社による寡占市場となっています。

フィリピンの携帯電話市場の特徴として、SIMカードが複数入るモデルの普及が挙げられます。街中で安価に販売されている低機能の携帯電話でもSIMカードが2枚入るタイプのものが多く、そこにSmartとGlobeのSIMカードを1枚ずつ入れて使用する人が多いという印象です（私も私用携帯電話をそのように使っています）。複数SIMの携帯電話がよく利用されるのは、SmartやGlobeを含めキャリアによってサービスエリアの得手不得手があり、マニラ首都圏の中心部であっても、Smartが通じにくいエリアや、逆にGlobeが通じにくいエリアがあるという事情があるためと思われます。他にも、プリペイド用のSIMカードが広く普及しているため、自分が普段使うキャリアはポストペイド、あまり使わない方は必要ときにプリペイドをチャージして使うという利用方法もあれば、それぞれ同じキャリア同士であれば安価に通信できるプランがあるので、相手によってどちらを使うか1台の端末で区別することもできます。プリペイドSIMは1枚40ペソ（約100円）と安価なので、キャリアを追加・変更するのも非常に簡単です。

中古の携帯電話屋が多いのも特徴です。アドレス帳等のデータを消してSIMカードを差し替えれば問題無く使えるので、（最新のモデルが必要無いのであれば）わざわざ新品を買わなくても中古で安く手に入ります（データを消し忘れていて、知人が買った中古携帯電話に以前の持ち主の楽しそうな写真が残っていたこともあります）。写真は近所のショッピングモールにある「携帯電話屋エリア」とでも言うべき一角で、このような店が10店舗以上軒を連ねています。ご覧の通り、“Repair”、“Buy&Sell”、“2nd Hand Cellphone”の文字が並び、新品も含めて様々な種類の携帯電話が手に入ります。

その他特筆すべき点として、フィリピンは世界一SMSを送信する国で、その数1日10億通、地球上のSMSトラフィックの2割を占めることが挙げられます。仕事上のやりとりSMSを使用することにも寛容で、フィリピン政府当局の幹部と連絡を取り合う場合等、日本では携帯電話のメールで行うことが憚られるような場合でも、SMSで迅速に済ませられることが多々あります（電子メールには全く返信してこないし電話にも出ないのに、SMSを送ったら即返信があった、というこ



写真2. ショッピングモールや街中に多数ある携帯屋。新品からアクセサリまで何でも手に入る。

とも経験しました）。

## 7. フィリピンのテレビ事情

フィリピンは島国で、多様な言語や文化を持つ地域がありますが、全国ネットの放送網を持っている大手テレビ局が4局あり、中でも人気があるのがABS-CBNとGMAという民放大手2社で、その他に民放のABCと国営放送のNBNがあります。最大手2社のライバル意識はすさまじく、複数ある調査会社の様々な数字から「我が局こそナンバー1」というデータをこれでもかと引用し、お互いに総合視聴率トップを主張しています。

なお、日本のアニメはフィリピンでも大人気で、自前のコスプレイベントが頻繁に開催されています。一方で、韓流ドラマも人気があり、多数放送されているそうです。

## 8. フィリピン雑学

### ①もてなしの国

フィリピンでは家族・親族の繋がりがとても大切にされ、失業してしまった場合や急にまとまったお金が必要になった場合などでも、親族で支え合い融通し合っているとよく耳にします。先述のように女性も男性同様働くことが出来る環境が整っているため、失業した父親が家で赤ん坊の面倒を見つつ母親が家計を支えることは珍しくなく、進学のためのまとまったお金が必要になったら親族が蓄えを持ち寄って支援するそうです。

また、フィリピン人はもてなしの手厚さ（“Filipino Hospitality”）で知られ、陽気で笑顔を絶やさず、たとえ初対面でも温かく接してくれます。赤ちゃんが泣いていると、



写真3. 朝9時のミーティングで出てきたメリエンダ。  
この後の昼食も普通に食べました。



写真4. 9月に入れば、街はクリスマスの豪華な装飾に包まれる。

見ず知らずの人でもあやしてくれます。お洒落なレストラン等に赤ちゃん連れで行く家族も多く、赤ちゃんが泣いても、嫌な顔をすどころか、店員だけでなく近くのお客さんまで赤ちゃんをあやそうとしてくれたりもするので、乳幼児を抱える家族にとってはとても過ごしやすいというのが実感です。

熱帯の国らしく、フィリピンでは「寒さと甘さがもてなしの心」と聞いたことがあります。つまり、一年中暑いのでエアコンを寒いほどに強く効かせる、同じく暑い中来てくれた感謝の印に甘いお菓子（カロリー補給のため？）を出すのが歓迎の心を示すという意味です。確かに、打ち合わせのため先方の事務所にお邪魔すると、エアコンの設定が16℃の強風全開だったりするので、いくら外が暑くても上着は手放せません。そんな寒い部屋に入ると、温かいコーヒーと一緒に、お菓子だけでなくメリエンダと呼ばれるピザやサンドイッチがこれでもかと出されることもあります（写真3）。

## ②世界一クリスマスが長い国

フィリピンは世界一クリスマスが長い国と言われています。知り合いのフィリピン人によると「“Ber”の季節はクリスマスだよ！」だそうです。つまり、September、October、NovemberそしてDecemberがずっとクリスマス。しかもそれでは終わらず、年が明けてもまだクリスマスセールをやっています（正式には年が明けた1月1日を除く最初の日曜日に終わるそうです）。10月下旬にあるハロウィンはどうするのかなど思っていたら、サンタクロースとカボチャを並べてハロウィンセールも同時にやっているのを見て、彼らの大らかさに思わず笑ってしまいました。写真4は大手テレビ局の玄関

に飾ってあった巨大ツリーを私が撮影したのですが、日付はなんと9月13日です。

国民の約1割が海外出稼ぎに行っている中、クリスマス休暇で一時帰国して家族と久々の再会となる人も多いという事情もあり、12月に入り本格的なクリスマスシーズンが始まると、レストランでは一族総出といった感じの団体が見られ、一層華やいだ雰囲気に包まれます。

## ③最強のボクサーを生んだ国

ボクシングに興味がある方は御存じだと思いますが、フィリピンは00年代最強のボクサー、マニー=パッキャオを生んだ国です。元々ボクシングは人気がある上、その中でもパッキャオ人気は別格で、タイトル戦が行われる日は、多くのフィリピン人がテレビ観戦するため、慢性的に渋滞している首都マニラの大動脈であるエドサ大通がガラガラに空いている程です。パッキャオの人気はその強さだけでなく、貧しい出自、出稼ぎに来たマニラで路上生活をしながらトレーニングを積み、世界に君臨するチャンピオンになったという出世物語が、フィリピン人の心を掴むのだと思います。

## 9. 最後に

雑多な内容を書き連ねてしまいましたが、いかがでしたでしょうか。今後日本とフィリピンの関係は人の交流も含め益々広く深くなっていくことは間違いないと思います。皆様も今後、フィリピン人と接し、フィリピンに関するニュースを見聞きし、また、仕事やプライベートでフィリピンを訪れる際に少しでもお役に立てば幸いです。